

ウンカ類情報第3号

令和3年7月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**東海地方でトビイロウンカの誘殺が確認されています。
セジロウンカの発生量は、過去10年間で2番目に多い状況です。**

1 トビイロウンカ

6月下旬の本田調査では発生を確認しておらず、予察灯においても誘殺されていません。しかし、本年は本県への飛来に適した気象条件が6月末時点で9回出現しており、県内各地で坪枯れが多発した昨年と同程度の飛来予測回数となっています（昨年同時期での飛来予測回数は11回）。なお、直近では7月2日に飛来に適した気象条件になると予測されています（図）。

また、静岡県の子察灯で5月下旬から断続的に誘殺が確認されているほか、6月11日に三重県（松阪市）、6月25日に岐阜県（海津市）で誘殺が確認されています。

これらの状況から、本県においてもすでに飛来している可能性が十分にあります。ほ場に入って株元をよく観察するなど、発生動向に注意してください。

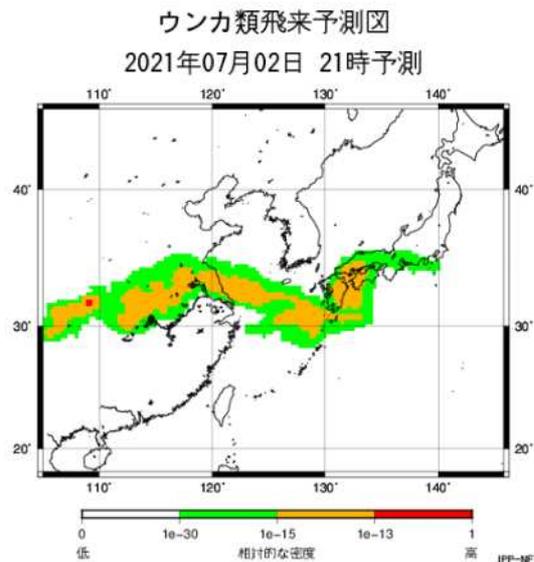


図 7月2日午後9時の飛来予測図
(提供：JPP-NET)

2 セジロウンカ

予察灯における本種の誘殺は確認されていません。

6月下旬の本田すくい取り調査において、97ほ場中、県内全域の12ほ場で成幼虫が捕獲されました。また、本田払い落とし調査において101ほ場中、県内全域の7ほ場で成幼虫が捕獲されました。捕獲虫数は、過去10年間と比較して2番目に多い状況です（表）。

ほ場ごとに発生量が異なると考えられるため、ほ場をよく観察し、発生量が多い場合は防除しましょう。今後、斑点米カメムシ類の防除時期に入りますので、同一薬剤の連用にならないよう計画的に薬剤を選択しましょう。なお、本県で栽培されている「あいちのかおり SBL」や「あさひの夢」はセジロウンカ殺卵反応（注）が弱い品種であるため、注意をしてください。

（注）セジロウンカの産卵によって殺卵物質が生成されるイネの生体防御反応

表 セジロウンカの6月下旬本田調査結果（1ほ場当たりの平均捕獲虫数） 単位：頭

調査方法	成虫	幼虫	計
捕虫網による20回すくい取り	0.14 (0.05)	0.06 (0.01)	0.21 (0.06)
水稻10株の払い落とし	0.10 (0.01)	0.21 (0.07)	0.31 (0.09)

（ ）内は、平年値（平成23～令和2年の平均）